



本日はよくお参り下さいました

暑さが日ごとに増してまいりましたが、いかがお過ごしですか。先日5月20日正五九祭が、氏子会役員参列のもと、無事に執り行われ、氏子崇敬者の皆さまのご繁栄、国と地域の発展を祈願いたしました。さて、6月10日は時の記念日です。この日の由来は、天智天皇が天津の都に漏刻(ろうこく)と呼ばれる水時計を設置し、鉦鼓を打って時を知らせたことが『日本書紀』に記されていることから、記念日と定められました。天智天皇をおまつりする滋賀県大津市の近江神宮には、近江神宮時計博物館があります。また近江神宮として近江時計眼鏡宝飾専門学校を経営し、多くの優秀な時計技術者を輩出しています。日本最古の記念日として祝日化への運動も行われているそうです。国民の祝日になる日がくるといいですね。今月も皆様のご健勝をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



漏刻(水時計)と鉦鼓

6月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

1日 更衣(ころもがえ) 気候に合わせて、衣服を着かえる習慣。「衣替え」「衣更」とも書く。更衣は、平安時代以降、まず宮中で定着しました。当時は四季に応じた衣装はまだなく、下着などで調節したといわれています。この日衣替えにちなんだ行事を行う地方もあります。



5日 芒種(ぼうしゅ) 芒種は梅雨入りの前で昔の田植えの開始期にあたります。雨が間断なく降り続き、農家は田植えの準備などに多忙を極めます。芒種とは、稲や麦など芒(のぎ…稲・麦などの実の殻にある針状の毛)のある穀物、すなわち稲を植え付ける季節を意味しています。かまきりや螢が現れ始め、梅の実が黄ばみ始める頃でもあります。

11日 入梅(にゅうばい) 梅雨の季節に入る最初の日。

21日 夏至(げし) 夏至は夏季の真ん中に当たり、梅雨の真っ盛りで、しとしと長雨が続きます。農家は田植えに繁忙を極める季節です。しょうぶが生え始め、半夏(からすびしゃく)が生えてきます。この日、北半球では昼が最も長くなり、反対に夜が最も短くなります。

30日 大祓(おおはらえ)…豆知識をご参照下さい。

天神さまの豆知識
—夏越(なごし)の祓—

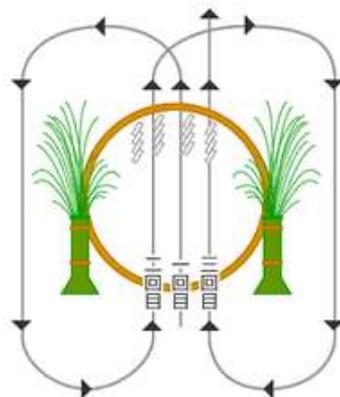
日本人は古来、心身のけがれを祓い清める「はらえ」を重視してきました。というのも古代の日本人にとって、稲は神の恩寵による神聖なものであり、けがれの無い身体で、農業に従事することが必要だと考えていたからです。

そのため、毎年六月と十二月の末日に行う大祓を重んじてきました。六月の大祓は、夏越(なごし)の祓と呼ばれます。夏を越し、残り半年を平穏無事に過ごせるよう祈るものです。夏越は「和し(なごし)」に通じることから、疫神を和ませて災厄を鎮める「和しの祓」であるともされました。

現在各地の神社で行われている夏越の祓の行事は、二つの方法があります。ひとつは形代に半年間の罪けがれを移すもの。もうひとつは茅の輪くぐりです。茅の輪くぐりとは、漢方としても利用効果がある、茅(ちがや)を束ねて作った茅の輪を神前に立てて、これを三回くぐりながら「水無月の夏越の祓する人は千歳(ちとせ)の命のぶというなり」と唱えるものです。これを行うことにより、半年間の穢れがはらわれるとともに、疫病や災厄から逃れられると考えられました。この行事は、武塔(むとう)の神(スサノオの命と同一視される)に一夜の宿を貸した蘇民将来(そみんしょうらい)が茅の輪をつけていたことで疫病を免れたという故事にちなんでい

<茅の輪のくぐり方>

- ①茅の輪の前に立ち、一礼して、左図一回目の線のように左回りでくぐります。
- ②再び茅の輪の前に立ち、一礼してから、二回目の線のように右回りでくぐります。
- ③茅の輪の前に戻ったら、一礼して三回目の線のように左回りでくぐり、正面に戻ります。
- ④最後に一礼してから茅の輪をくぐりまっすぐご神前に進んでお参りをします。



ます。その故事は、『備後国風土記』に記載されています。参考『神道とききたり事典』茂木貞純監修PHP研究所発行

今月の言葉

『万の災いは、虚言より起る。故に神、これをあじきなしと嫌いたまう』
林羅山「神道伝授」より

この社会のすべての災いは、人間が、意図的に流した嘘や、うっかりついた嘘から起る。だから神は、嘘をつくことをとんでもない不当として嫌うのだ。(「あじきない」は「とんでもない」という意味。)

参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房発行